

香川県レッドデータブック

香川県の希少野生生物

普及版

2004



[表紙写真]

上段：オニバス

下段：ニッポンバラタナゴ

[裏表紙写真]

上段（左から）：オオダイガハラサンショウウオ、ミソゴイ

中段（左から）：タウヤモリ、ショウドシマレンギョウ、ルイスハンミョウ

下段（左から）：ニホンテングコウモリ、ショウドシマギセル、ハクセンシオマネキ

発刊にあたって

香川県は、白砂青松の海岸と多島美を誇る瀬戸内海、緑豊かな讃岐山脈、多くのため池が点在する讃岐平野など、変化に富んだ豊かな自然環境に恵まれ、多様な野生の動物、植物が生息生育しています。

しかし、近年の生活様式の変化や開発の進展等により、干潟やため池、里地里山の生息環境が悪化し、メダカやゲンゴロウなど、身近に見られた多くの野生生物が絶滅の危機にさらされています。

このため県では、平成11年度から15年度まで調査を実施し、平成16年3月に798種に及ぶ県内の希少野生生物が直面している厳しい現状を明らかにした「香川県レッドデータブック」をとりまとめたところです。

本普及版は、このうち「香川県レッドデータブック」の内容について、県民の皆様により親しみやすく、また、利用しやすいサイズに再編し紹介したものです。

県では、これまでの調査結果を踏まえ、専門家で構成する検討会を設置し、人間と希少野生生物が共生できるよう、条例の制定も視野に入れ、実効性のある保護方策について検討してまいります。

心豊かでうるおいのある生活を送るためには、私たち人間も自然界の一員であるということをも十分認識し、それぞれの立場で環境問題を考え、身近なところから、具体的な実践活動に取り組んでいくことが、大事であると思います。

この小冊子が、そのような取組の一助として、広く県民の皆様にご活用いただければ、幸いです。

平成16年10月

香川県環境森林部長

INDEX

1. 県版レッドデータブックの意義・役割.....	1
2. 掲載種数一覧.....	2
3. 区分及び基本概念.....	2
4. 掲載種の解説	
植物.....	4
哺乳類.....	17
鳥類.....	19
爬虫類.....	27
両生類.....	29
淡水魚類.....	31
昆虫類.....	33
甲殻類.....	45
陸産・淡水産貝類.....	47
5. 索引.....	53

1. 県版レッドデータブックの意義・役割

県版レッドデータブックの作成および発行は、ここ数年全国各都道府県で急ピッチで進められています。2004（平成16）年7月現在、ほぼ9割の都道府県が、県内での野生生物の現状を踏まえた県版レッドデータブックを作成・発行しており、既に改訂作業に入っている県もあります。

本県においても、平成11年度に「香川県希少野生生物保護対策検討会」を設置し、5ヵ年計画で、県内の野生生物の文献・標本調査に加え、現地調査を行い、平成16年3月に香川県レッドデータブックを発行しました。

香川県では、2000（平成12）年に「香川県新世紀基本構想」を策定し、「みどり・うるおい・にぎわいの創造」を基本目標に「自然との共生・持続的発展」を重点推進プランの一つにあげています。また、2001（平成13）年に策定された「香川県環境基本計画」では、「県民が自然と共生する豊かな環境の創造」と「人と自然との豊かなふれあいが保たれる潤いと安らぎのある快適な環境の創造」を基本方針にあげており、それに基づく「香川県自然環境保全基本方針」を2003（平成15）年に改定しました。

このように自然との共生、自然環境の創造が叫ばれる中、地域性を持った県版レッドデータブックの持つ意味は大きく、国レベルの評価では捉えきれなかった地域の種の現状、自然環境の現状をより適切に表現しているからこそ、現実的な保護対策を講じることが可能になります。また、県民の方々にとって身近な野生生物だからこそ、絶滅に対する危機感をより身近に感じることができるでしょう。「Think globally, act locally」、地球規模での種の絶滅の問題も、まずは自分達のまわりから目を向けていきたいものです。

（香川県希少野生生物保護対策検討会の委員）

氏名	現職	専門分類
植松辰美	香川大学名誉教授	淡水魚類 爬虫類・両生類 甲殻類
山本正幸	香川大学教育学部非常勤講師	鳥類
末広喜代一	香川大学教育学部教授	植物
金子之史	香川大学教育学部教授	哺乳類
出嶋利明	高松第一高等学校教諭	昆虫類
多田昭	元香川中部養護学校教諭	陸産・淡水産貝類

2. 掲載種数一覧

分類群	区分						合計割合(%)
	絶滅 (EX)	野生絶滅 (EW)	絶滅危惧類 (CR+EN)	絶滅危惧類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	
植物	5	0	201	95	89	11	401 (50.3)
哺乳類	1	0	0	0	4	0	5 (0.6)
鳥類	0	0	16	19	30	6	71 (8.9)
爬虫類	0	0	0	0	3	2	5 (0.6)
両生類	0	0	1	2	2	0	5 (0.6)
淡水魚類	0	0	8	7	4	0	19 (2.4)
昆虫類	4	0	24	52	143	14	237 (29.7)
甲殻類	0	0	1	0	3	0	4 (0.5)
陸産・淡水産貝類	2	0	23	16	9	1	51 (6.4)
合計 割合(%)	12 (1.5)	0 (0.0)	274 (34.3)	191 (24.0)	287 (36.0)	34 (4.3)	798 (100)

3. 区分及び基本概念

絶滅	香川県ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧類	絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧類	絶滅の危機が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足	情報が不足しているが、今後注意を要する種

4. 掲載種の解説

香川県レッドデータブックに掲載した798種の野生生物のうち、絶滅の危機に瀕している動植物、比較的良く知られている種を中心に、139種を選んで、香川県レッドデータブックの「種の解説」を基に記載しました。

項目説明

写 真	科 名
	全 国 環境省カテゴリー 分 布 県内におけるおおまかな分布、必要に応じて県外での分布も記載 生息環境 種の生息（生育）環境 形 態 種の形態的特徴 危険性・絶滅の要因 選定理由をもとに記載
和 名（俗名） 香川県カテゴリー	



マツバラ
絶滅危惧 類

マツバラ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 小豆島の一部や豊中町、大野原町など
生息環境 山地や山麓、木の上や岩の割れ目
形 態 常緑性。葉はなく、茎に小さな突起がある。
危険性・絶滅の要因 江戸時代より日本のサボテンと珍重され、採集されて著しく減少



カラクサシダ
絶滅危惧 類

ミズワラビ科

- 全 国** -
分 布 県南部の徳島県境付近の1箇所
生息環境 湿度の高い場所、渓流沿いの湿った岩上や樹幹上のコケの間
形 態 葉は5cm前後、葉の両面に毛を持つ。
危険性・絶滅の要因 森林開発による生育地の減少や森林の伐採などによる乾燥化



シシラン
絶滅危惧 類

シシラン科

- 全 国** -
分 布 琴南町の1箇所の社叢
生息環境 山地の樹林中の岩上や樹幹
形 態 葉は長さ400cm前後、葉裏で葉軸がもりあがっている。
危険性・絶滅の要因 崖・土砂崩れなどの自然災害による自生地の消失や採取



ナチクジャク
絶滅危惧 類

オシダ科

- 全 国** -
分 布 高松市、香川町、琴南町、国分寺町
生息環境 暖かい山地に生息する樹林の林床や山麓近くの崖地
形 態 葉は長さ60cm前後、全縁のりん片をやや密に持つ。
危険性・絶滅の要因 森林開発による生息地の消失や自然遷移による衰退



サジラン
絶滅危惧 類

ウラボシ科

- 全 国** -
分 布 琴南町、仲南町
生息環境 山地樹林下の溪流近くの岩上や樹幹に着生。好湿性
形 態 葉は長さ25cm前後、根茎はやや長くはう。
危険性・絶滅の要因 森林の伐採や岩石採掘などの森林開発による生育地の消失



アッケシソウ
絶滅危惧 類

アカザ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
分 布 北海道、宮城県、四国
生息環境 波が直接当たることの少ない海岸の入り江の塩湿地
形 態 花は上部の節に3つずつ付き、中央の花はやや大きい。秋に紅葉
危険性・絶滅の要因 塩田の廃止と、その跡地の土地造成による生育環境の減少



オキナグサ
絶滅危惧 類

キンポウゲ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 本州、四国、九州
生息環境 日当たりの良い草地
形 態 花の外側は白毛におおわれるが内側は暗赤紫色。釣鐘状
危険性・絶滅の要因 日当たりの良い草地の自然遷移の進行による減少と採取



ベニバナヤマシャクヤク
絶滅危惧 類

ボタン科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
分 布 琴南町、塩江町
生息環境 落葉樹林など山の木陰
形 態 4～6月頃、茎の頂に淡紅色の花を11個つける。
危険性・絶滅の要因 森林の伐採、スギ・ヒノキ等の造林。観賞用に採取される恐れがある。



ミセバヤ
絶滅危惧 類

ベンケイソウ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
分 布 全国的にも香川県の限られた地域に分布
生息環境 乾燥した岩の塊が集まった岩の上
形 態 多肉質の葉は緑白色。秋に茎の先にピンク色の集合花をつける。
危険性・絶滅の要因 園芸採取、生息地の森林開発



ハマボウ
絶滅危惧 類

アオイ科

- 全 国** -
- 分 布** 神奈川県以南の本州、四国、九州、
県内では沿岸付近
- 生息環境** 海岸や河口のやや安定した砂泥地
- 形 態** 落葉低木。フヨウに似た黄色い花が
7月頃に咲く。
- 危険性・絶滅の要因** 海岸の埋め立て等の乾燥
化による遷移の推移、園芸用の採取



シコクカッコソウ
絶滅危惧 類

サクラソウ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
- 分 布** 四国のみ分布、讃岐山脈沿いの限
られた地域
- 生息環境** 山地の湿った谷沿いに生育する。
- 形 態** 葉は厚く、広円形。全体的に毛が多
い。花は紅紫色
- 危険性・絶滅の要因** 生息地の森林開発、園芸
採取、植林によって絶滅する危険性
あり。



ヒメシロアサダ
絶滅危惧 類

ミツガシワ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 宮城県以南の主に太平洋側、県内では土庄町豊島
- 生息環境** 水位の安定した湿田や休耕田、ため池
- 形 態** 水面近くの節から1～2枚の浮き葉を出す。ガガブタに類似。
- 危険性・絶滅の要因** 水田の管理が放棄され、雑草などが侵入して遷移が進行



アサザ
絶滅危惧 類

ミツガシワ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 全国的には北海道、本州、四国、九州
生息環境 湖沼、ため池、水路
形 態 葉はほぼ円形で、基部は深く切れ込む。花の色は黄色。
危険性・絶滅の要因 水質の悪化による減少や消滅の危険性あり。



ハマネナシカズラ
絶滅危惧 類

ヒルガオ科

- 全 国** -
分 布 高松市、観音寺市、詫間町、多度津町など
生息環境 海岸に生えるハマゴウなどに寄生
形 態 茎葉細長く、糸状で寄生植物にからみつく。
危険性・絶滅の要因 海辺の開発、帰化植物の侵入や人の踏みつけによる成育環境の悪化



スナビキソウ
絶滅危惧 類

ムラサキ科

- 全 国** -
分 布 県西部の海浜の砂地
生息環境 海辺の砂地
形 態 茎の高さ20～40cm位で毛が密生、地下茎を伸ばして増加
危険性・絶滅の要因 砂の移動、ゴミによる汚れ、人の踏み付けなどによる生育環境悪化



ウンラン
絶滅危惧 類

ゴマノハグサ科

- 全 国** -
分 布 北海道、千葉以北の太平洋沿岸、日本海・瀬戸内海沿岸
生息環境 県内のごく限られた海岸の砂浜
形 態 葉は無毛、肉質で緑白色。夏から秋に黄白色の唇形花が咲く。
危険性・絶滅の要因 海辺の改変や砂浜への立ち入り



イワギリソウ
絶滅危惧 類

イワタバコ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
分 布 近畿地方以西の本州、四国、九州。県内ではごくまれ
生息環境 山地の日陰の岩壁
形 態 葉は全体に軟毛が多く、キリの葉に似ている。
危険性・絶滅の要因 園芸採取、生育地の森林開発による絶滅の危険あり。



カワラハハコ
絶滅危惧 類

キク科

- 全 国** -
分 布 島嶼部を含め、県内の主要河川の中～上流域の河原に点在
生息環境 日当たりの良い大きな河川の河原で、洪水を受ける中州など
形 態 茎は高さ30～50cm位。葉の裏には特に白色の綿毛が多い。
危険性・絶滅の要因 河川改修による生育地の消失、帰化植物などの他植物の繁茂



ノジギク (セトノジギク含む)
絶滅危惧 類

キク科

- 全 国** -
- 分 布** 島嶼部を含め県内の海岸部に点在、小豆島、仁尾町
- 生息環境** 海岸近くの日当たりの良い乾燥した岩崖地
- 形 態** 葉の表面は緑色、裏面は灰白色の密毛がある。
- 危険性・絶滅の要因** 海岸の改変などで生育地消失、近縁種との交雑による雑種化



シバナ
絶滅危惧 類

ホロムイソウ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 高松市、丸亀市、多度津町等。しかし現在は確認されていない。
- 生息環境** 海岸の塩性泥土に生育
- 形 態** 高さ15～40cm位の花茎の上部に緑色の花を多数穂状に付ける。
- 危険性・絶滅の要因** 海辺の堤防の改修、埋立等によって生育地が消滅



ヒメソクシンラン
絶滅危惧 類

ユリ科

- 全 国** 絶滅危惧 A類
- 分 布** 観音寺市粟井町奥谷のごく限られた地域
- 生息環境** 山地部の日当たりの良い露岩地で、常時湿っている土壌
- 形 態** 根元にグラジオラスを小型にしたような長さ1～3mmの球茎がある。
- 危険性・絶滅の要因** 自生地を苔類が覆ってしまい、発芽が抑制された。



カンカケイニラ
絶滅危惧 類

ユリ科

- 全 国** 絶滅危惧 A類
分 布 小豆島の寒霞渓
生息環境 日当たりの良い乾燥した集塊岩の急な崖になっている所
形 態 葉は線形、肉厚。花被片は白～淡紅色
危険性・絶滅の要因 特産種として乱獲された。岩石採掘による生息地の消失



トサコバイモ
絶滅危惧 類

ユリ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
分 布 四国西部から九州中部、香川県では讃岐山脈の西端
生息環境 山地高所の落葉樹林で、多種の繁茂していない明るい林床
形 態 りん茎は球茎。茎は無毛で花は斜下向きに咲く。
危険性・絶滅の要因 森林開発による生息地の消失、園芸目的による採取の危険性あり。



ヒメユリ
絶滅危惧 類

ユリ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
分 布 東北地方南部以南の本州、四国、九州
生息環境 山地の明るい草地など。伐採跡に出現することもある。
形 態 小型のユリ。花は2～3個で上を向いて咲く。
危険性・絶滅の要因 園芸採取、森林開発などによって絶滅する危険性あり。



ササユリ
絶滅危惧 類

ユリ科

- 全 国** -
- 分 布** 本州中部以西に分布、県内では島嶼部の一部で確認
- 生息環境** 山地の日当たりの良い草地で水はけの良い土壌
- 形 態** 花被片の先はやや反り返り、葉の形は笹の葉に似る。
- 危険性・絶滅の要因** 島嶼部の人口減少と高齢化に伴う採草行為の中止



ホンバシュロソウ
絶滅危惧 類

ユリ科

- 全 国** -
- 分 布** 平野部の丘陵地
- 生息環境** 丘陵や山塊のやや湿気のある凹地や草原
- 形 態** 茎は50～100cm。径1cm位の暗紫色の花を多数つける。
- 危険性・絶滅の要因** 岩石の採掘や土砂の流出により生育地が減少



ミズアオイ
絶滅危惧 類

ミズアオイ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 県内の平野部に点状に散見される。
- 生息環境** 水田や河川、用水路など浅い停水生の水域に生育する。
- 形 態** 葉は心形で厚く光沢があり、8月～10月、青紫色の花が咲く。
- 危険性・絶滅の要因** 河川改修や水路改修による生育地の消失、除草剤による枯死



ミクリ
絶滅危惧 類

ミクリ科

- 全 国** 準絶滅危惧
分 布 島嶼部を含め、県内に広く分布
生息環境 平野部から丘陵部のため池など泥質
 土壌の水深の浅い場所
形 態 葉は線形で柔らかく、断面は三角形
危険性・絶滅の要因 河川や溜池の埋め立て行
 為による生育立地消失の危険性あり。



ヒメミクリ
絶滅危惧 類

ミクリ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 満濃町、仲南町、財田町、高瀬町、
 綾上町他
生息環境 湖沼、ため池、湿地
形 態 高さ40～90cm。花は6～9月につ
 ける。
危険性・絶滅の要因 ため池の改修や開発によ
 る湿地の減少、水質の汚濁



クマガイソウ
絶滅危惧 類

ラン科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 北海道西南部、本州、四国、九州
生息環境 山地の樹林下
形 態 葉は扇円形で放射状に多数の脈、大
 型の花が一つだけ横向き
危険性・絶滅の要因 園芸採取の危険性



サギソウ
絶滅危惧 類

ラン科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 本州、四国、九州
生息環境 日当たりの良い湿地
形 態 花の色は白色で、シラサギを思わせる形をしている。
危険性・絶滅の要因 園芸採取による絶滅の恐れ



オニバス
絶滅危惧 類

スイレン科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 宮城県以南の本州、四国、九州、県西部の平野部のため池
生息環境 やや富栄養化した平野部のため池
形 態 初期浮葉はとげはないが、成長すると植物全体にとげができる。
危険性・絶滅の要因 生育地の極端な富栄養化、除草剤の流入等の農薬汚染



ヤマシャクヤク
絶滅危惧 類

ポタン科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 関東以西の本州、四国、九州の冷温帯域、県内の讃岐山脈沿い
生息環境 やや明るい落葉広葉樹林の林床
形 態 5月ごろに大きい白い花が咲く。
危険性・絶滅の要因 園芸採取による危険性大、森林開発などにより減少する危険あり。



ショウドシマレンギョウ
絶滅危惧 類

モクセイ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
- 分 布** 小豆島の限られた地域にのみ分布
- 生息環境** 小豆島の日当たりの良い乾燥した集塊岩地域
- 形 態** 落葉性の小低木。4月末～5月上旬に葉と花が開く。
- 危険性・絶滅の要因** 森林開発、植林、園芸採取などにより減少の危険性あり。



チョウジガズミ
絶滅危惧 類

スイカズラ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 中国地方、四国、九州、県内では小豆島と海岸に近い山林内
- 生息環境** 乾燥した石灰岩地帯や集塊岩地帯、明るい林縁部
- 形 態** 葉柄、葉の表面、葉脈に星状毛を持ち、花は浅桃色で芳香を放つ。
- 危険性・絶滅の要因** 園芸採取、森林開発などで絶滅する危険性あり。



リンドウ(ホソバリンドウ含む)
準絶滅危惧

リンドウ科

- 全 国** -
- 分 布** 中山間部の農耕地周辺
- 生息環境** ため池の土手、田畑周辺の草地、森林の林縁部
- 形 態** 花は紫色で内面に茶褐色の斑点がある。
- 危険性・絶滅の要因** 生育地の山林の林縁部、草地が森林開発などによって減少



ガガブタ
準絶滅危惧

ミツガシワ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 平野部から丘陵部にかけてのため池
生息環境 平野部から丘陵部にかけてのやや富栄養化したため池
形 態 葉はほぼ円形で、基部は深く切れ込む。花は白色
危険性・絶滅の要因 ため池の改変や水質悪化等による危険性あり。



キキョウ
準絶滅危惧

キキョウ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 北海道から奄美大島まで、県内では丘陵部から山地部まで
生息環境 日当たりの良い草地
形 態 太い根茎が地中深くはいる。葉は先はとがり、花は青紫色
危険性・絶滅の要因 園芸採取、ため池の改変、草地の自然遷移、管理放棄



エビネ
準絶滅危惧

ラン科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 丘陵部から山地部にかけて
生息環境 雑木林の林床
形 態 葉は無毛で、縦じわが多く、先がとがる。花茎に10個位の花
危険性・絶滅の要因 園芸採取、生育地の森林開発などによって減少する危険あり。



アズマモグラ
準絶滅危惧

モグラ科

- 全 国** -
- 分 布** 本州中部以北が中心、県内では小豆島や讃岐山脈
- 生息環境** 森林や農耕地
- 形 態** モグラ属では最も小型種。香川県産は頭骨全長が35mm以下
- 危険性・絶滅の要因** 河川、ため池の改修、ダム、道路建設。コウベモグラの侵入



ニホンテングコウモリ
準絶滅危惧

ヒナコウモリ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 北海道、本州、九州、香川、愛媛、高知の洞窟内
- 生息環境** 樹洞をねぐらとしている。
- 形 態** 体毛は灰褐色で鼻孔は管状で外側や前方に突き出す。やや大型
- 危険性・絶滅の要因** 森林や大径木の伐採によってねぐらが消失



ニホンイタチ
(トマコ、トマス、トマサコ)
準絶滅危惧

イタチ科

- 全 国** -
- 分 布** 本州、九州、佐渡島、隠岐諸島、淡路島、四国、小豆島
- 生息環境** 河川・水田などの水辺、森林
- 形 態** 毛色は濃色。尾率は50%以下。雄は雌よりも頭胴長が大きい。
- 危険性・絶滅の要因** 競争関係にあるチョウセンイタチが分布域を拡大した。



アナグマ
(ササグマ、ムジナ、マミ)
準絶滅危惧

イタチ科

- 全 国** -
- 分 布** 讃岐山脈の県境付近。平野部の丘陵地
- 生息環境** 山地帯下部から森林に生息。トンネルを掘り、1～数個体で生活
- 形 態** ずんぐりした体つきで、爪が長く湾局して、鼻先が円盤状である。

危険性・絶滅の要因 不明



ツクシガモ
絶滅危惧 類

カモ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
- 分 布** ユーラシア大陸中部で繁殖し、主に九州北部に渡来
- 生息環境** 広大な干潟、内陸の大きなため池にも渡来
- 形 態** 全長63cmの大型のカモ類。背中から胸にかけて茶色の幅広い帯
- 危険性・絶滅の要因** 生息環境である浅瀬があるため池や干潟の保全が必要



オオタカ
絶滅危惧 類

タカ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 留鳥として九州以北に分布
- 生息環境** 山地から平地にかけての森林、農耕地などの開けた所にある林
- 形 態** 全長は雄50cm、雌56cmで、キャツキャツ、ケーケーと鳴く。
- 危険性・絶滅の要因** 営巣木であるマツの枯死、里山の開発が進行している。



サシバ(キンミダカ)
絶滅危惧 類

タカ科

- 全 国** -
- 分 布** 夏鳥として香川県の山地にも渡来し繁殖する。
- 生息環境** 春、南方より渡来し、低山の林で繁殖。アカマツの大木に営巣する。
- 形 態** 全長は雄47cm、雌51cm。頭上は灰褐色で、ピックイーと鳴く。
- 危険性・絶滅の要因** マツクイムシ被害でアカマツの枯死による繁殖低下



セイタカシギ
絶滅危惧 類

セイタカシギ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
- 分 布** 高松市の小田池、丸亀市の田村池・太井池、豊浜町の姫浜など
- 生息環境** 浅瀬のあるため池や水田、干潟など
- 形 態** 全長37cm。ピンク色の長い足。背から上面は黒、他の部分は白
- 危険性・絶滅の要因** ため池改修により、浅瀬がコンクリート化すると危険性が高まる。



コアジサシ
絶滅危惧 類

カモメ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 坂出市番ノ州埋立地、高松市朝日町埋立地。現在は見られない。
- 生息環境** 広い砂浜や河川敷、埋立地などの人工裸地で集団繁殖
- 形 態** 全長28cm。頭頂から後頭部が黒色、体と翼の上面は淡灰色
- 危険性・絶滅の要因** 砂浜や河川敷などの自然地形の減少が最大要因



ヤイロチョウ(ヤイロツグミ)
絶滅危惧 類

ヤイロチョウ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
- 分 布** 讃岐山脈中の琴南町、塩江町、東かがわ市など
- 生息環境** 5月上旬～6月上旬に山地の広葉樹林に渡来
- 形 態** 体に茶、赤、緑、コバルト、黄、黒などの色がつき美しい。
- 危険性・絶滅の要因** 自然林の減少。写真撮影による繁殖活動の攪乱



サンショウクイ
絶滅危惧 類

サンショウクイ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 本州、四国、九州、県内では琴平山、高松市の藤尾山
- 生息環境** 山地、丘陵地、平地などの落葉樹林に、夏鳥として渡来
- 形 態** 全長20cm。体を立てて木に止まる特徴がある。
- 危険性・絶滅の要因** 森林の伐採、開発行為は大きな影響を与える。



ミゾゴイ(ヤマイボ)
絶滅危惧 類

サギ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 夏鳥として、本州、四国、九州に渡来
- 生息環境** 落葉広葉樹がよく茂った低山の暗い谷間で繁殖
- 形 態** 全長49cm。頭、後頸にかけて栗色
- 危険性・絶滅の要因** 林道建設などの開発による森林の減少、竹林の急速な拡大



クロサギ
絶滅危惧 類

サギ科

- 全 国** -
- 分 布** 日本、中国、オーストラリア、日本では本州中部以南の海岸
- 生息環境** 常に海岸で生息し、特に岩礁の多い海岸や入江、河口など
- 形 態** 全長62.5cm。普通は黒色だが、南西諸島以南では白色が多い。
- 危険性・絶滅の要因** 繁殖地の近くに人が侵入し、繁殖障害となり減少要因となっている。



トモエガモ (アジ、アジガモ)
絶滅危惧 類

カモ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** シベリア東部で繁殖し、日本や中国東南部で冬を越す。
- 生息環境** 各地のダム湖、ため池、河口などに渡来。
- 形 態** 全長40cmの小型のカモ類。肩羽は、他のカモよりも長い。
- 危険性・絶滅の要因** ため池、ダム湖、河口などの湿地の改変や水質汚濁の影響



ハヤブサ
絶滅危惧 類

ハヤブサ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 香川県では留鳥として分布
- 生息環境** 海岸に近い山の崖で生息、崖の岩だなや穴で営巣する。
- 形 態** 全長は雄42cm、雌49cm。ケーケー、キッキキなどと鳴く。
- 危険性・絶滅の要因** 釣りや写真撮影、ロッククライミングなども繁殖活動に影響あり。



ヒクイナ (ナツクイナ)
絶滅危惧 類

クイナ科

- 全 国** -
- 分 布** 夏鳥として渡来し繁殖する。県内の平野部に分布
- 生息環境** ため池、河川などのヨシ原や水田、草むら
- 形 態** 全長22.5cm。頭から尾までの上面は緑がかった褐色
- 危険性・絶滅の要因** 河川やため池などの湿地の減少が主因、水質汚染



ホウロクシギ
絶滅危惧 類

シギ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** オホーツク海沿岸、中国中部で繁殖、
県内には春秋に立ち寄る。
- 生息環境** 広い干潟や広いため池
- 形 態** 全長62cmの大型のシギ。地上では高い声でホーインなどと鳴く。
- 危険性・絶滅の要因** 埋立などによる干潟の減少を防ぐことが必要



ヨタカ(キュウリキザミ)
絶滅危惧 類

ヨタカ科

- 全 国** -
- 分 布** 讃岐山脈や五色台のような山塊。小豆島など
- 生息環境** 落葉樹や針葉樹の森林に接した草地、低木林など
- 形 態** 全長29cm。灰褐色、白色、黒色の複雑な虫食い模様
- 危険性・絶滅の要因** 針葉樹の植林による広葉樹林の減少、森林開発



ヤマセミ(カノコショウビン、カワチョウ)
絶滅危惧 類

カワセミ科

- 全 国** -
- 分 布** 香東川、土器川、財田川などの上流
- 生息環境** 限られた河川の渓流やダム湖など
- 形 態** 全長37.5cm。全体的に白っぽい。キヤラツ、キヤラツと鳴く。
- 危険性・絶滅の要因** 上流部の河川改修などによる自然度の低下



オシドリ
準絶滅危惧

カモ科

- 全 国** -
- 分 布** 東アジア特産種で、日本が主な生息地
- 生息環境** 山間部のダム湖や森林に囲まれたため池に冬鳥として生息
- 形 態** 雄の羽色は美しく特徴的。雌は全体的に灰褐色
- 危険性・絶滅の要因** 山間部のため池周辺の森林開発や狩猟による影響



シロチドリ(ハマチドリ)
準絶滅危惧

チドリ科

- 全 国** -
- 分 布** 県内で留鳥として夏季に繁殖もするが、多くは漂鳥や旅鳥
- 生息環境** 春秋の渡り時期に群れて干潟などに立ち寄る。
- 形 態** 全長17.5cm。全体に白っぽい。背面は灰褐色で、腹面が白い。
- 危険性・絶滅の要因** 埋立による干潟の減少、ため池の改変などが影響



ハマシギ(ハシナガ)
準絶滅危惧

シギ科

- 全 国** -
- 分 布** 県内では主に河口干潟や広いため池に旅鳥、冬鳥として渡来
- 生息環境** 干潟やため池に渡来し、ゴカイ類小型カニ類などを捕食する。
- 形 態** 全長21cm。春は、腹に大きな黒ぶちがあるが、秋冬には消える。
- 危険性・絶滅の要因** 干潟の埋立、ため池の改修による浅瀬の減少



トラフズク
準絶滅危惧

フクロウ科

- 全 国** -
- 分 布** 本州中部以北で繁殖、県内には冬期に渡来
- 生息環境** 海岸に近い林や緑地公園、河原林などに生息する。
- 形 態** 全長35～40cm。顔はフクロウに似るが、長い羽角を持つ。
- 危険性・絶滅の要因** 平野部の樹林が冬期の住みかになるが、河原林の多くが消失



コミミズク
準絶滅危惧

フクロウ科

- 全 国** -
- 分 布** 県内の海岸地域の広い農耕地や草地に冬鳥として渡来
- 生息環境** 夕方、広い草地やヨシ原の上を飛ぶ。日中は草原で休む。
- 形 態** 全長35～41cm。羽角は短くほとんどみえない。
- 危険性・絶滅の要因** わずかに残る広い草地やヨシ原の保全が重要



アオバズク(ムギウラシ)
準絶滅危惧

フクロウ科

- 全 国** -
- 分 布** 夏鳥として南方から渡来し、県内の平地や人里近い山地で繁殖
- 生息環境** 平地の社叢林や山地の森林の大木の樹洞で営巣。夜行性
- 形 態** 全長27～30.5cm。羽角がない。体の上面が黒褐色、虹彩は黄色
- 危険性・絶滅の要因** 社叢林や森林の伐採が進むと大木が減少し、巣を作れなくなる。



コサメビタキ
準絶滅危惧

ヒタキ科

- 全 国** -
- 分 布** 県内では、自然林に近い落葉広葉樹林で繁殖
- 生息環境** 夏鳥として低山の落葉広葉樹林に渡来し、皿型の巣を作る。
- 形 態** 全長13cm。体の上面は、やや褐色みのある灰色
- 危険性・絶滅の要因** 県内に残る落葉広葉樹林が、森林開発などで減少すると影響を受ける。



サンコウチョウ(サンコドイ)
準絶滅危惧

カササギヒタキ科

- 全 国** -
- 分 布** 県内の山地の谷筋
- 生息環境** よく茂り比較的薄暗い落葉広葉樹林で繁殖
- 形 態** 全長雄44.5cm、雌17.5cm。雌は雄よりも尾が短い。
- 危険性・絶滅の要因** 落葉広葉樹林の開発や農薬による餌の昆虫類の減少



イシガメ
準絶滅危惧

イシガメ科

- 全 国** -
- 分 布** 小豆郡土庄町のごく限られた沼やため池
- 生息環境** 標高約100m前後の家庭排水が流入していないため池や沼
- 形 態** 背甲は褐色でクサガメのような顕著な3本の隆起はない。
- 危険性・絶滅の要因** 生息場所のため池や沼の改修工事が行われると、生息環境悪化



タワヤモリ (イワハミ、トビハミ、ヒチブクサレ)
準絶滅危惧

ヤモリ科

- 全 国** -
- 分 布** 瀬戸内海沿岸部など、溶岩台地のウバメガシが生えている岩場
- 生息環境** ウバメガシ林などが残っている山地の乾燥岩場や海岸近くの岩場
- 形 態** 頭胴長5～6cm。背面は黒褐色か灰褐色に黒褐色の雲状斑紋
- 危険性・絶滅の要因** 海岸線の開発、山間部の道路整備による森林伐採、岩場の消失



ニホントカゲ
準絶滅危惧

トカゲ科

- 全 国** -
- 分 布** 島嶼部、五色台、讃岐山脈の山のふもと周辺
- 生息環境** 日当たりの良い草地、ガレ場石垣、コンクリート側溝など
- 形 態** 全長20～25cm。成体は背面が褐色か黒褐色
- 危険性・絶滅の要因** 日当たりの良い草地、石垣の消失、餌である小昆虫などの減少



スッポン
情報不足

スッポン科

- 全 国** 情報不足
- 分 布** 栗林公園、高瀬川、亀水川、財田川、香東川、鴨部川など
- 生息環境** ため池や沼、河川。河川では砂泥中やゴミの中に潜んでいる。
- 形 態** 甲長は20～30cm位。頭部の鼻先が前方に大きくせり出している。
- 危険性・絶滅の要因** 河川改修、ため池の改修、捕獲の危険性



タカチホヘビ
情報不足

ナミヘビ科

- 全 国** -
- 分 布** 五色台、大滝山、三木町、綾歌町、琴平町、財田町
- 生息環境** 湿った石や朽ち木の下など地中に潜って生息
- 形 態** 全長約30～60cm。背面中央に細い黒条が一本走る。
- 危険性・絶滅の要因** 道路工事による溪流の破壊やダム工事等による溪流の流失



ダルマガエル
絶滅危惧 類

アカガエル科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 塩江町の谷間の低湿地
- 生息環境** 水田内に作られた小さな溝で1年を通して水が浅く溜まった環境
- 形 態** 体長は5～6cm位。腹部にダルマ斑紋と呼ばれる小さな黒斑がある。
- 危険性・絶滅の要因** 水田の乾田化が進み、1年を通して水が浅く溜まる環境の消失



カスミサンショウウオ
絶滅危惧 類

サンショウウオ科

- 全 国** -
- 分 布** 五色台、琴平山などの山のふもとや丘陵地
- 生息環境** 成体は丘陵地の落葉広葉樹林や竹やぶの浅い地中など
- 形 態** 全長7～12cm。体色は変異があり暗褐色より淡褐色の個体が多い。
- 危険性・絶滅の要因** 丘陵地の森林開発、土地開発、水田の圃場整備、道路工事



オオダイガハラサンショウウオ
絶滅危惧 類

サンショウウオ科

- 全 国** -
- 分 布** 讃岐山脈に源流を持つ柞田川、財田川、土器川、綾川、香東川のの上流域
- 生息環境** 標高500～700mの落葉広葉樹林の溪流近くの岩石、倒木、落葉の下
- 形 態** 全長16～20cm。体色は青みを帯びた黒色で腹面がやや淡い。
- 危険性・絶滅の要因** 生息地の森林伐採や河川改修、キャンプ地の生活排水による水質汚濁



ニホンヒキガエル（オンビキ、ガマガエル）
準絶滅危惧

ヒキガエル科

- 全 国** -
- 分 布** 島嶼部（小豆島など）や平野部の山のふもと（五色台）、山間部
- 生息環境** 人里近くの落葉広葉樹林や森林の湿った環境
- 形 態** 体長は7～15cm位。背にいぼいぼが多数あり体の割に後肢が短い。
- 危険性・絶滅の要因** 人里近くの落葉広葉樹林の荒廃や石垣などの隙間の多い環境の減少



トノサマガエル
準絶滅危惧

アカガエル科

- 全 国** -
- 分 布** 山間部の水田、島嶼部の水田、ため池、河川、ダムの上流など
- 生息環境** 山間部の水田、島嶼部の水田、ため池、流れの緩やかな河川
- 形 態** 体長は6～9cm位。雄は全体的に緑色の部分が多く、雌は白っぽい。
- 危険性・絶滅の要因** 冬期の冬眠中に地面が掘り返されると凍死するケースが多い。



ニッポンバラタナゴ

絶滅危惧 類(ニガブナ、イタブナ、ニガンチョ)

コイ科

- 全 国** 絶滅危惧 A類
- 分 布** 高松市、三木町、さぬき市の山際にある目につきにくいため池
- 生息環境** 水草の繁茂した浅いため池、流れが極めて緩やかか、全くない水域
- 形 態** 全長5 cm位。小型のタナゴ類。雄の婚姻色は朱赤色が強い。
- 危険性・絶滅の要因** タイリクバラタナゴとの交雑個体群の移入による雑種化



カワバタモロコ

絶滅危惧 類

コイ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
- 分 布** 土器川水系、春日川水系、鴨部川水系
- 生息環境** 平野部の河川で流れの緩やかな細流、山際の浅く小さなため池
- 形 態** 全長3～6 cm位。体色は背部が緑色を帯びた褐色、腹部が銀白色
- 危険性・絶滅の要因** 用水路の三面コンクリート化、ため池の埋立などの生息地の人工化



ナガレホトケドジョウ

絶滅危惧 類

ドジョウ科

- 全 国** 絶滅危惧 B類
- 分 布** 小豆郡1河川を含む県内12河川上流域にあたる山間部の谷の細流
- 生息環境** うっそうとした山間の細流に局部的に生息し、落ち葉の下などにいる。
- 形 態** 全長6 cm位。体色は腹側が淡褐色で、背面は黄褐色
- 危険性・絶滅の要因** 森林開発や河川のコンクリート護岸化、砂防堰堤建設等の開発



アカザ
絶滅危惧 類

アカザ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 土器川、綾川
生息環境 比較的水のきれいな川の中流から上流に生息
形 態 全長約10cm。体色は暗赤色か明るい赤褐色。頭は横に幅広い。
危険性・絶滅の要因 山林伐採や砂防堰堤の設置、ダム建設、河川改修



カジカ (カジカ大卵型、河川陸封型)
絶滅危惧 類

カジカ科

- 全 国** -
分 布 香東川
生息環境 河川上・中流の早瀬や平瀬
形 態 全長約15cm。体色は淡褐色から暗褐色まで変異に富む。
危険性・絶滅の要因 ダム建設、河川改修による生息場所の減少および消失の危険性あり。



オヤニラミ
絶滅危惧 類

ケツギョ科

- 全 国** 準絶滅危惧
分 布 金倉川上流域
生息環境 河川中流部やそれに流入する細流の流れが緩やかな場所
形 態 体長約10cm。体側に6～7本のしま模様があり、尾びれ後端は丸い。
危険性・絶滅の要因 川岸のヨシ帯など生息場所の消失と魚食性外来魚の食害、水質悪化



ハッチョウトンボ
絶滅危惧 類

トンボ科

- 全 国** -
- 分 布** 本州、四国、九州、アジア。県内では綾上町、坂出市五色台など
- 生息環境** 丘陵地の日当たりがよく草丈の低い植物が生える湿地
- 形 態** 腹長10～14mm、後翅長13～15mm。日本産トンボの中で最小
- 危険性・絶滅の要因** 生息地の開発などによって湿地がなくなり、生息環境が消失



タガメ
絶滅危惧 類

コオイムシ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 本州、四国、九州、沖縄本島。県内では平野部を中心に分布していた。
- 生息環境** 水田、水生植物の多いため池。ゆるやかな流れ
- 形 態** 5～7cm。日本最大の水生カメムシ類。
- 危険性・絶滅の要因** 水田の農薬の使用、ため池のコンクリート化



ヨドシロヘリハンミョウ
絶滅危惧 類

ハンミョウ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 県内の塩田に広く生息していた。小豆島にも生息
- 生息環境** 河口のヨシ原、県内では塩田跡他
- 形 態** 体長9～12mm。前翅側縁は翅端まで中断することなく白く縁取る。
- 危険性・絶滅の要因** 河口域や塩田跡の開発によるヨシ原の減少



ルイスハンミョウ
絶滅危惧 類

ハンミョウ科

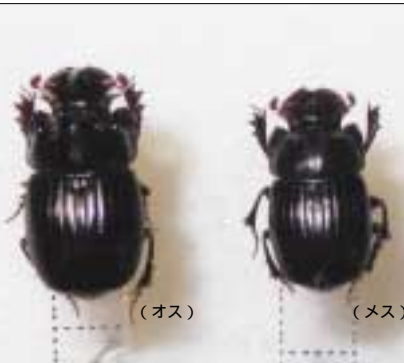
- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 県内では高松市、多度津町佐柳島
生息環境 成虫は砂質～砂泥質の海岸の波打ち際、幼虫は砂丘などに生息
形 態 体長15～18mm。背面はつやのない緑～黒色
危険性・絶滅の要因 護岸工事や各種開発による自然海岸の減少



ゲンゴロウ
絶滅危惧 類

ゲンゴロウ科

- 全 国** 準絶滅危惧
分 布 北海道、本州、四国、九州。県内では東かがわ市（旧白鳥町）
生息環境 水田、農薬の入り込まない水草の多いため池、湿地、放棄水田
形 態 大きなものは4cmを越えゲンゴロウ類としては日本最大種
危険性・絶滅の要因 水田における農薬の使用、ため池のコンクリート化及び管理放棄



ゴホンダイコクコガネ
絶滅危惧 類

コガネムシ科

- 全 国** -
分 布 県内では小豆島
生息環境 牛馬糞に生息
形 態 体長10～15mm。雄は頭部の5本の角が明瞭である。
危険性・絶滅の要因 牛馬糞の減少に伴う個体数の減少が心配される。



クロカナブン
絶滅危惧 類

コガネムシ科

- 全 国** -
分 布 愛媛県、徳島県
生息環境 県内では大滝山、猪ノ鼻峠付近など
 標高の高い所の雑木林
形 態 体長26～32mm。光沢のある漆黒色
危険性・絶滅の要因 低地性の種であるが、雑
 木林の荒廃で、山地に追い込まれた。



シルビアシジミ
絶滅危惧 類

シジミチョウ科

- 全 国** -
分 布 関東地方以西の本州、四国、九州、
 種子島。県内は高松市、小豆島等
生息環境 ミサコグサが群生するため池の土手
 や河川の草原に生息
形 態 雄の翅表面は青藍色、雌は暗褐色
危険性・絶滅の要因 河川敷の改修、ため池の
 管理放棄などによるミサコグサ群落
 の消失



オオウラギンヒョウモン
絶滅危惧 類

タテハチョウ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 本州、四国、九州。県内では高松市
 紫雲山、讃岐山脈、飯山町など
生息環境 草刈りなど人の手が加わり、明るい
 環境が維持されたススキの草原
形 態 日本産のヒョウモンチョウとしては
 最大。ウラギンヒョウモンに似る。
危険性・絶滅の要因 明るい環境が維持された
 ススキ草原の消失の影響大



アオモンギンセダカモクメ
絶滅危惧 類

ヤガ科

- 全 国** -
- 分 布** 対馬、九州は佐賀から四国、本州。
ヨーロッパ～シベリアに分布
- 生息環境** 河川敷や河口にあるキク科のカワラ
ヨモギの混ざった草原環境
- 形 態** 白色の前翅に緑色の網目模様があり、独特の模様を持っている。
- 危険性・絶滅の要因** 河川改修による河床攪乱
と護岸整備などによる草地の減少



ゲンバイトンボ
絶滅危惧 類

モノサシトンボ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 関東以西の本州、四国、九州
- 生息環境** 丘陵地の湧水を源とするゆるやかな
清流や水路
- 形 態** モノサシトンボに似ているが、雄の
後肢が白い軍配状になっている。
- 危険性・絶滅の要因** 干ばつによる河川流水の
枯渇が主因であると考えられる。



コバネアオイトンボ
絶滅危惧 類

アオイトンボ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 現在は四国島内では県内の3箇所の
み
- 生息環境** 平地や丘陵地の腐植質が堆積する池
沼
- 形 態** 腹長28～33mm、後翅長18～22mm。
全身体の背面が金属緑色
- 危険性・絶滅の要因** 埋立やため池改修による
生息環境の破壊、乾燥化



チュウブホンガムシ
絶滅危惧 類

ホンガムシ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 善通寺市与北町、坂出市神谷町、高松市三谷町など
- 生息環境** ため池岸边近くの水中の落ち葉たまり
- 形 態** 体長 2 mm位で細長い。複眼は大きく側方に突出する。
- 危険性・絶滅の要因** ため池や湿地の改変による生息場所の消滅による絶滅の危険性あり。



モリシタケアリ
絶滅危惧 類

アリ科

- 全 国** -
- 分 布** 大川山山頂付近とさぬき市前山
- 生息環境** 森林。県内では尾根筋の明るい場所
- 形 態** 体長 4 ~ 5 mm。体は漆黒色で光沢がある。
- 危険性・絶滅の要因** 森林開発による生息環境の破壊、アカマツの枯死



ウラジロミドリシジミ
絶滅危惧 類

シジミチョウ科

- 全 国** -
- 分 布** 綾上町、綾南町、国分寺町、高松市南部など県中部の低山帯
- 生息環境** 県内では幼虫の食樹であるナラガシワに依存して生活している。
- 形 態** ミドリシジミのグループの中ではやや小型。
- 危険性・絶滅の要因** 宅地開発、工業団地開発によるナラガシワ林の伐採



ウラギンスジヒョウモン
絶滅危惧 類

タテハチョウ科

- 全 国** -
- 分 布** 北海道から九州まで。県内では北部の平地から低山地
- 生息環境** 毎冬に刈り取られて焼かれ春には明るい環境となるススキの草原
- 形 態** 翅型が丸く翅表面および裏面の前翅端は淡色
- 危険性・絶滅の要因** 宅地開発などによる平地の草原の減少、ススキ草原の消失



キマダラモドキ
絶滅危惧 類

ジャノメチョウ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 北海道、本州、四国、九州。県内では讃岐山脈山頂部、大麻山
- 生息環境** 山地の落葉広葉樹林。カシワが生える明るい林
- 形 態** 雄は翅表面が黄褐色、雌は淡黄褐色。
- 危険性・絶滅の要因** 森林伐採、スギ・ヒノキの植林などによる落葉広葉樹林の消失



クロヒカゲモドキ
絶滅危惧 類

ジャノメチョウ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 本州、四国、九州。低中山帯、讃岐山脈
- 生息環境** 落葉広葉樹林の周辺部
- 形 態** 翅表面、裏面とも淡褐色で、色調はクロヒカゲより淡い。
- 危険性・絶滅の要因** 宅地、道路工事などによる低中山地の落葉広葉樹林の消滅



ウラナミジャノメ
絶滅危惧 類

ジャノメチョウ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 本州、四国、九州。県内では小豆島、高松市女木島の島嶼部
- 生息環境** 明るいススキ草原。県内ではため池の土手や集塊岩地帯にできた草原
- 形 態** 小型のジャノメチョウで、近縁の普通種ヒメウラナミジャノメに似る。
- 危険性・絶滅の要因** ため池の土手の工事、管理放棄などによるススキ草原の消失



クビジロツメヨトウ
絶滅危惧 類

ヤガ科

- 全 国** -
- 分 布** 香川、新潟、長野、石川。県内では寒霞溪
- 生息環境** 食樹のイワガサが自生している崖地や岩場の林
- 形 態** 青味を帯びた暗い前翅の内横線基部
- 危険性・絶滅の要因** 食樹のイワガサが生息する環境は、防災上コンクリート化され易い。



ヤマトマダラバッタ (ヤマトバッタ)
準絶滅危惧

バッタ科

- 全 国** -
- 分 布** 観音寺市の有明浜、小豆島、男木島など島嶼部の数箇所
- 生息環境** ハマゴウ、コウボウムギなどの生える砂浜海岸
- 形 態** 体長3cm程度。白っぽい地色に複雑な褐色斑
- 危険性・絶滅の要因** 人工海岸化による自然砂浜海岸の消失



コオイムシ
準絶滅危惧

コオイムシ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 島嶼部を含む平野部から低山帯にかけての水田、ため池
- 生息環境** 水田や水草の多い浅いため池、ダム池に緩やかに流れ込む場所
- 形 態** 体長 2 cm程度。尾端に短い呼吸管を持つ。
- 危険性・絶滅の要因** ため池の改修、農薬の使用



ヒメタイコウチ
準絶滅危惧

タイコウチ科

- 全 国** -
- 分 布** さぬき市、平野部から低山地に分布
- 生息環境** ため池周辺の浅い水路や落ち葉のたまった側溝、湿地など
- 形 態** 2 cm前後で、呼吸管が短い。
- 危険性・絶滅の要因** ため池周辺の改変、宅地・工業団地などの開発による湿地の消失



アイヌハンミョウ
準絶滅危惧

ハンミョウ科

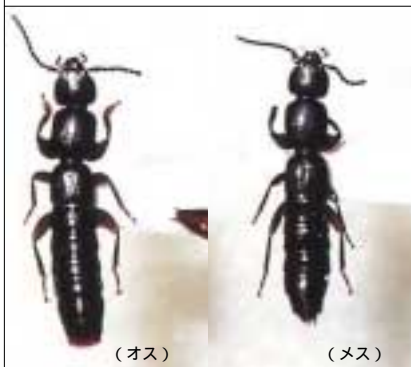
- 全 国** -
- 分 布** 高松市、塩江町（香東川水系）、綾上町（綾川水系）
- 生息環境** ところどころに転石がある砂地の草が生えた環境を好む。
- 形 態** 体長 16 ~ 17mm。背面はつやのない緑色
- 危険性・絶滅の要因** 河川改修と護岸工事による砂質の河原の消失



サトウメクラチビゴミムシ
準絶滅危惧

オサムシ科

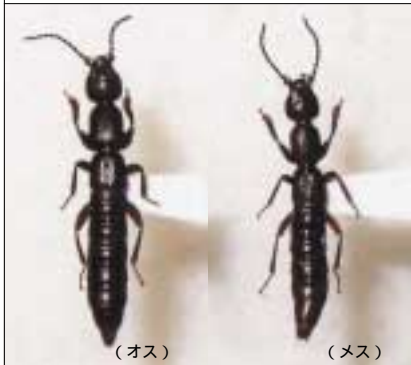
- 全 国** -
分 布 琴南町大川山、塩江町別子
生息環境 地中から地下浅層。温度や湿度が一定に保たれる環境
形 態 体長4.9～5.9mm。体は細長く赤褐色。複眼は完全に退化する。
危険性・絶滅の要因 道路工事や護岸工事、砂防ダム建設による生息地の消失



サヌキコバナナガハネカクシ
準絶滅危惧

ハネカクシ科

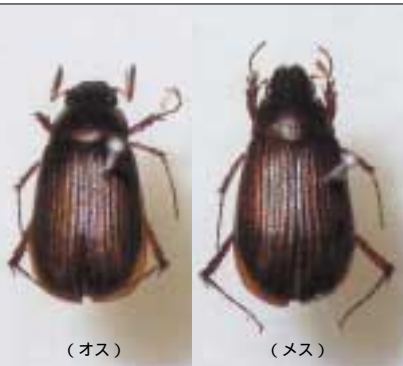
- 全 国** -
分 布 大滝山、琴平町
生息環境 落ち葉下
形 態 体長8.9～9.6mm。複眼は小さく、後翅は退化している。
危険性・絶滅の要因 ダム建設による生息環境の破壊の危険性あり。



コンピラオコバナナガハネカクシ
準絶滅危惧

ハネカクシ科

- 全 国** -
分 布 琴平山のみ
生息環境 琴平山の地下浅層や枯れ沢の石下
形 態 体長10.8～12.4mm。体全体が赤味の強い褐色
危険性・絶滅の要因 森林開発、人工造林が主な要因と考えられる。



コンピラ(コトヒラ)チャイロコガネ
準絶滅危惧

コガネムシ科

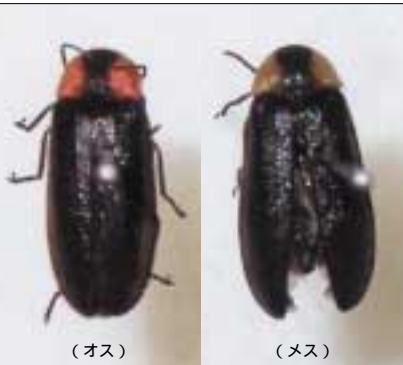
- 全 国** -
分 布 琴平山のみ
生息環境 自然林
形 態 雄の体長10mm前後。雌は11～12mm程度
危険性・絶滅の要因 森林開発、人工造林が主な要因と考えられる。



ヒメボタル
準絶滅危惧

ホタル科科

- 全 国** -
分 布 琴平山、大滝山、高松市生島町、小豆島、女木島など
生息環境 幼虫は陸生。森林生のホタル。
形 態 体長6mm位。雌の体は丸っこく、触角は短く、後翅が退化している。
危険性・絶滅の要因 森林開発が考えられる。



ヘイケボタル
準絶滅危惧

ホタル科

- 全 国** -
分 布 北海道から九州までの平地
生息環境 幼虫は水生。ため池や水田または水田の周りの用水路
形 態 体長7～10mm。前胸背板は赤く、中央に太い縦の黒線が入る。
危険性・絶滅の要因 ため池や水田およびその周辺の改変が最大の要因。



キマダラセセリ
準絶滅危惧

セセリチョウ科

- 全 国** -
- 分 布** 島嶼部を含む平地より讃岐山脈までの県内一円
- 生息環境** ため池の土手、樹林の縁、山地などの草原
- 形 態** 前翅長15mm弱。翅表は褐色地に垂外縁部が黄色帯
- 危険性・絶滅の要因** ため池の土手の改変および放棄、宅地開発などによる草原の減少



カラスアゲハ
準絶滅危惧

アゲハチョウ科

- 全 国** -
- 分 布** 県内の低山地から讃岐山脈
- 生息環境** コクサギが生える山地の渓流。吸蜜植物の生える山地
- 形 態** 春型と夏型により大きさと色彩が異なる。
- 危険性・絶滅の要因** 森林伐採、スギなどの植林によるコクサギの生える生息地の減少



コムラサキ
準絶滅危惧

タテハチョウ科

- 全 国** -
- 分 布** 県内の平地から山地まで
- 生息環境** 幼虫がヤナギ類を食するので、河川に生えたヤナギ類などから発生
- 形 態** 雄の翅表は紫色に輝く。雌では褐色。
- 危険性・絶滅の要因** 河川改修に伴うヤナギ群落の消失、街路樹のシダレヤナギの減少



オオムラサキ
準絶滅危惧

タテハチヨウ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 北海道、本州、四国、九州。県内では讃岐山脈、綾上町、琴平町など
- 生息環境** エノキ、クヌギなどが混ざる落葉広葉樹林
- 形 態** 日本の国蝶として有名。タテハチヨウ類としては日本最大
- 危険性・絶滅の要因** 里山地域の管理放棄による落葉広葉樹林の遷移など



ウスジロドクガ
情報不足

ドクガ科

- 全 国** -
- 分 布** 本州中部山岳から東北地方。県内では塩江町椀川
- 生息環境** やや人での入った明るい丈の低い二次林を含んだ荒れ地的場所
- 形 態** 翅ともに純白。胸背の部分の毛が盛り上がっている。
- 危険性・絶滅の要因** 二次林の伐採および放置



シオマネキ
絶滅危惧 類

スナガニ科

- 全 国** 準絶滅危惧
分 布 本津川および新川
生息環境 高潮線付近の干潟の泥と砂が混ざった泥干潟に巣穴を作って生息
形 態 甲幅は大きいもので40mmで、額が狭く眼後歯は鋭く斜め上方に突起する。
危険性・絶滅の要因 河口付近の堤防、河床工事・潮止め堰の設置、水質汚濁



ハクセンシオマネキ
準絶滅危惧

スナガニ科

- 全 国** 準絶滅危惧
分 布 県内の主な河川の干潟、島嶼部
生息環境 干潟の砂泥地で、高潮線にやや近く、水はけがよく、周辺よりやや高い所
形 態 甲幅20mm位の小型のカニ。雄は第一歩脚の片方が巨大
危険性・絶滅の要因 河口付近の堤防、河床工事・潮止め堰の設置、水質汚濁



サワガニ
準絶滅危惧

サワガニ科

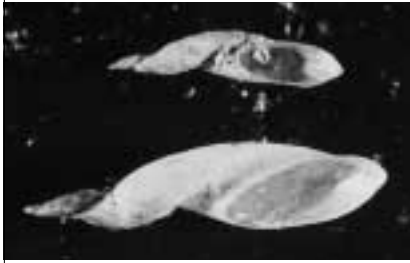
- 全 国** -
分 布 県内全域の山地溪流
生息環境 水のきれいな山地溪流で、川岸の流れの緩やかな石の下に隠れる。
形 態 甲幅は大きなもので30mm。色は茶褐色
危険性・絶滅の要因 道路建設、川岸の工事砂防ダムなどの建設・改修



アカテガニ
準絶滅危惧

イワガニ科

- 全 国** -
- 分 布** 島嶼部、東部地域の一部
- 生息環境** 河口付近の草地、樹林帯、用水路等
- 形 態** 甲幅30mm前後で、甲殻は四角形、体色は全体的に深紅色が多い。
- 危険性・絶滅の要因** 河口付近の堤防・護岸工事及び水路のコンクリート化



カワネジガイ
絶滅

ヒラマキガイ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 本州、四国、九州、インド。県内では高松市一宮町田村神社近郊
- 生息環境** ため池や沼などのヨシやガマなどの水草に付着している。
- 形 態** 淡褐色で殻質は極めて薄く、殻高約10mm
- 危険性・絶滅の要因** ため池や水路の改修、農薬や化学肥料などによる水質汚濁



シロマイマイ
絶滅

オナジマイマイ科

- 全 国** -
- 分 布** 高知県、徳島県、愛媛県。本県では三豊郡大野原町
- 生息環境** 常緑広葉樹の葉裏や幹に付着して生息
- 形 態** 殻は中形で右巻き、殻高約12mm、殻径約20mmで、全体が白い。
- 危険性・絶滅の要因** 砂防ダムの建設によって生息地が破壊され、既に絶滅した。



ヤノムシオイガイ
絶滅危惧 類

ムシオイガイ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 県内の3箇所まで生息が確認されているが、他県では発見されていない。
- 生息環境** 落葉広葉樹林内の落ち葉の積もったガレ場の礫間
- 形 態** 殻は淡赤褐色で右巻き。殻高約1.5mm、殻径約4mm
- 危険性・絶滅の要因** 環境が変化しやすいガレ場に生息しているため、環境の悪化に弱い。



シリプトゴマガイ
絶滅危惧 類

ゴマガイ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** フィリピン、オーストラリア東部、九州、香川
- 生息環境** 低地から丘陵地の里山で、ケヤキなどの落葉広葉樹林の落ち葉下
- 形 態** 殻は赤色で右巻き。殻高約 2 mm、殻径約 1.2 mm
- 危険性・絶滅の要因** 生息地である神社の境内に土砂が捨てられたため、ほとんどが窒息死



ワカウラツボ
絶滅危惧 類

ワカウラツボ科

- 全 国** -
- 分 布** 和歌山県和歌浦。県内では豊浜町、丸亀市、土庄町
- 生息環境** 河口付近（汽水域）の泥層にある石の下
- 形 態** 殻は紅色で殻高約 5 mm、殻径約 2 mm、約 5 層。紡錘形で右巻きの貝
- 危険性・絶滅の要因** 河川改修や海岸整備。生活排水の流入による水質汚濁



オオコウラナメクジ
絶滅危惧 類

オオコウラナメクジ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 全国的に広く分布するが、北方系の種で、県内では讃岐山脈山頂部
- 生息環境** 落葉広葉樹林の落ち葉下に生息
- 形 態** 体長約 4 cm。体色は茶褐色で全体に白い霜降り状の模様
- 危険性・絶滅の要因** 森林開発や観光開発による生息環境の悪化。乾燥すると絶滅の可能性大



ビロウドマイマイ
絶滅危惧 類

ニッポンマイマイ(ナンバンマイマイ)科

- 全 国** -
- 分 布** 関東から中部地方、滋賀県、小豆島
- 生息環境** うっそうと茂る落葉広葉樹林内の倒木など適度の湿度のある場所
- 形 態** 殻は茶褐色で右巻き。殻表には殻皮毛が密生、ピロウド状
- 危険性・絶滅の要因** 植林による環境の変化、過去に生息していた谷が林道建設のため破壊



イソムラマイマイ
絶滅危惧 類

オナジマイマイ科

- 全 国** -
- 分 布** 県内で2箇所発見され、各産地とも局限
- 生息環境** 落葉広葉樹のうっそうと茂る谷筋の植物の葉に付着
- 形 態** 殻は褐色で右巻き。殻高約5.5mm、殻径約7mm、約5層の低い円錐形
- 危険性・絶滅の要因** 食草が限られており、環境が変化すれば絶滅するだろう。



マヤサンマイマイ
絶滅危惧 類

オナジマイマイ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 神戸市麻耶山、小豆島、高松市と瀬戸内海を挟み南北方向に分布
- 生息環境** 落葉広葉樹がうっそうと茂った森、谷あいの植物の葉の裏に付着
- 形 態** 殻は濃褐色で右巻き。殻高約5.5mm、殻径約8mm、約5層の円錐形
- 危険性・絶滅の要因** 小豆島の山地は現在採石されており、産地が消滅する可能性あり。



ヤハタマイマイ
絶滅危惧 類

オナジマイマイ科

- 全 国** -
分 布 県固有種
生息環境 大きな岩があって湿気の多い落葉広葉樹林
形 態 殻は大形で右巻き。殻高約3.2cm、殻径約5.5cm
危険性・絶滅の要因 コレクターによる採集や観光開発



チャイロオトメマイマイ
絶滅危惧 類

オナジマイマイ科

- 全 国** -
分 布 中部地方西部から中国地方。県内では小豆島のみ。
生息環境 小豆島の集塊岩地帯のシロダモやアラカシなどの常緑樹の葉裏
形 態 殻は小形で右巻き。殻高約7mm、殻径約10mmで、殻全体が茶褐色
危険性・絶滅の要因 森林開発などで樹木が伐採され、林床が乾燥すると絶滅の可能性あり。



マルドブガイ
絶滅危惧 類

イシガイ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
分 布 栗林公園内の池と水路、高松市仏生山町、琵琶湖水系の特産種
生息環境 浅くて泥質に富んだ場所に、後縁がわずかに泥から出た形で生息
形 態 褐色から黒色の殻を持ち、殻長約20cm、殻高約13cm
危険性・絶滅の要因 池や水路の改修、農薬などの流入による水質悪化が心配される。



マルタニシ
絶滅危惧 類

タニシ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 北海道から南西諸島まで。県内では丸亀市、満濃町と小豆島
- 生息環境** ため池や用水路に生息しており、砂地よりは泥地を好む。
- 形 態** 緑がかった黒色の殻で右巻き、やや薄質。殻高約60mm、殻径約45mm
- 危険性・絶滅の要因** ため池への排水の流入や農薬散布による水質の悪化



ヤマトクビキレガイ
絶滅危惧 類

クビキレガイ科

- 全 国** -
- 分 布** 本州、四国、九州、伊豆諸島から朝鮮半島。県内では小豆島、丸亀市
- 生息環境** 自然海岸に打ち上がった海藻やゴミなどが堆積している場所
- 形 態** 橙色か白色。殻高約8mm、殻径約3mm。3～4層の円筒状
- 危険性・絶滅の要因** 自然海岸の減少と有害なゴミの増加による自然環境の悪化



サナギガイ
絶滅危惧 類

サナギガイ科

- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 内海町、さぬき市、東かがわ市、丸亀市、詫間町の小さな無人島
- 生息環境** 小さな離島で海に面した斜面に生えている草の根本などの湿った所
- 形 態** 殻は淡褐色の小さな貝で、殻高約4mm、殻径約2mm、約6層右巻き
- 危険性・絶滅の要因** 近年の異常乾燥や大雨のための崖崩れなどによる生息環境の悪化



ショウドシマギセル
絶滅危惧 類

キセルガイ科

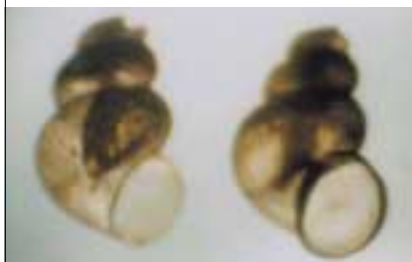
- 全 国** 絶滅危惧 類
- 分 布** 小豆島ほぼ全域と豊島の一部、屋島
のみ生息する固有種
- 生息環境** うっそうと茂った落葉広葉樹林の落
葉の下やガレ場の礫間など
- 形 態** 殻は白色で、殻高約13mm、殻径約3
mm、約11層
- 危険性・絶滅の要因** 生息域が局限しているこ
ともあり、採集圧が心配。林道開設



イボイボナメクジ
絶滅危惧 類

ナメクジ科

- 全 国** 準絶滅危惧
- 分 布** 全国的に広く分布、県内でも讃岐山
脈から里山、離島
- 生息環境** 広葉樹林内のガレ場の湿気のある礫
間
- 形 態** 体長3cm。軟体には殻がない。体表
全体にイボ状の小さな突起がある。
- 危険性・絶滅の要因** 森林開発などで林床が乾
燥して、絶滅する危険性あり。



コウチミジンツボ
情報不足

ミズツボ科

- 全 国** -
- 分 布** 四国の平野部全域に分布
- 生息環境** 地下水系に生息しており、井戸や湧
水のわき出し口付近
- 形 態** 殻高約1.5mm、殻径約0.7mm、殻色は
透明感のある白色で光沢がある。
- 危険性・絶滅の要因** 地下水汚染による絶滅の
危険性あり。

5. 索引

植 物

アッケシソウ.....	5
アサザ.....	8
イワギリソウ.....	9
ウンラン.....	9
エビネ.....	16
オキナグサ.....	6
オニバス.....	14
ガガブタ.....	16
カラクサシダ.....	4
カワラハハコ.....	9
カンカケイニラ.....	11
キキョウ.....	16
クマガイソウ.....	13
サギソウ.....	14
ササユリ.....	12
サジラン.....	5
シコクカッコソウ.....	7
シシラン.....	4
シバナ.....	10
ショウドシマレンギョウ.....	15
スナビキソウ.....	8
チョウジガマズミ.....	15
トサコバイモ.....	11
ナチクジャク.....	5
ノジギク.....	10
ハマネナシカズラ.....	8
ハマボウ.....	7
ヒメソクシンラン.....	10
ヒメシロアサザ.....	7
ヒメミクリ.....	13
ヒメユリ.....	11
ベニバナヤマシャクヤク.....	6
ホソバシュロソウ.....	12
マツバラン.....	4
ミクリ.....	13
ミズアオイ.....	12
ミセバヤ.....	6
ヤマシャクヤク.....	14
リンドウ.....	15

哺乳類

アズマモグラ.....	17
アナグマ.....	18
ニホンイタチ.....	17
ニホンテングコウモリ.....	17

鳥 類

アオバズク.....	25
オオタカ.....	19
オシドリ.....	24
クロサギ.....	21
コアジサシ.....	20
コサメビタキ.....	26
コミミズク.....	25
サシバ.....	19
サンコウチョウ.....	26
サンショウクイ.....	21
シロチドリ.....	24
セイタカシギ.....	20
ツクシガモ.....	19
トモエガモ.....	22
トラフズク.....	25
ハマシギ.....	24
ハヤブサ.....	22
ヒクイナ.....	22
ホウロクシギ.....	23
ミゾゴイ.....	21
ヤイロチョウ.....	20
ヤマセミ.....	23
ヨタカ.....	23

爬虫類

イシガメ.....	27
スッポン.....	28
タカチホヘビ.....	28
タワヤモリ.....	27
ニホントカゲ.....	27

両生類

オオダイガハラサンショウウオ.....	29
カスミサンショウウオ.....	29
ダルマガエル.....	29
トノサマガエル.....	30
ニホンヒキガエル.....	30

淡水魚類

アカザ	32
オヤニラミ	32
カジカ	32
カワバタモロコ	31
ナガレホトケドジョウ	31
ニッポンバラタナゴ	31

昆虫類

アイヌハンミョウ	40
アオモンギンセダカモクメ	36
ウスジロドクガ	44
ウラギンスジヒョウモン	38
ウラジロミドリシジミ	37
ウラナミジャノメ	39
オオウラギンヒョウモン	35
オオムラサキ	44
カラスアゲハ	43
キマダラセセリ	43
キマダラモドキ	38
クビジロツメヨトウ	39
クロカナブン	35
クロヒカゲモドキ	38
ゲンバイトンボ	36
ゲンゴロウ	34
コオイムシ	40
コバネアオイトトンボ	36
ゴホンダイコクコガネ	34
コムラサキ	43
コンピラオオコガネハネカクシ	41
コンピラ(コトヒラ)チャイロコガネ	42
サトウメクラチビゴミムシ	41
サヌキコバネナガハネカクシ	41
シルビアシジミ	35
タガメ	33
チュウブホソガムシ	37
ハッチョウトンボ	33
ヒメタイコウチ	40
ヒメボタル	42
ヘイケボタル	42
モリシタケアリ	37
ヤマトマダラバッタ	39
ヨドシロヘリハンミョウ	33
ルイスハンミョウ	34

甲殻類

アカテガニ	46
サワガニ	45
シオマネキ	45
ハクセンシオマネキ	45

陸産・淡水産貝類

イソムラマイマイ	49
イボイボナメクジ	52
オオコウラナメクジ	48
カワネジガイ	47
コウチミジンツボ	52
サナギガイ	51
ショウドシマガセル	52
シリプトゴマガイ	48
シロマイマイ	47
チャイロオトメマイマイ	50
ピロウドマイマイ	49
マヤサンマイマイ	49
マルタニシ	51
マルドブガイ	50
ヤノムシオイガイ	47
ヤハタマイマイ	50
ヤマトクビキレガイ	51
ワカウラツボ	48

香川県レッドデータブック

香川県の希少野生生物

普及版

平成16年10月 初版発行

発行 香川県環境森林部環境・水政策課
香川県高松市番町4丁目1番10号
電話 087 - 832 - 3211 FAX 087 - 834 - 9605
<http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/shizen/rdb/index.htm>

印刷 株式会社 中央印刷所
香川県高松市成合町742番地1
電話 087 - 885 - 3535 FAX 087 - 885 - 3550



香川県

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。
(表紙を除く)